

都道府県名 関東甲信越地区ブロック

第 17 回 献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

1. 平成 26 年度に行われた事業等の実績評価

都道府県名	事業等の名称	事業内容	本事業の効果・効果の要因・ <u>27 年度に向けた改善点</u> (献血者数、参加者数等の数値で表せる場合は記載する)
茨城県	高校献血キャンペーン	献血可能年齢に達する高校生の献血への関心を高め、献血を経験していただくことで、将来の献血協力者を育成・確保すること。 ・献血推進ポスター・標語コンクール ・献血協力生徒へ記念品の配布・アンケートの実施 (キャンペーン期間：10月から3月)	・ <u>事業効果</u> ：高校献血は全国平均以上 10代の献血率 6.6% ・ <u>効果要因</u> ：教育長等との連携による各高等学校での重点的な啓発 ・ <u>改善点</u> ：より効果的な広報
栃木県	血液センターまつり	血液センターまつりを通じて、献血の仕組みやその重要性について理解を深めてもらう。 ・模擬店・マスコットキャラクター・混声合唱団・大道芸人等のイベントで献血者を呼び込む	・ <u>事業効果</u> ：献血者数 233 名 ・ <u>効果要因</u> ：イベントの来場者約 1200 名に対し、広く啓発することができた。 ・ <u>改善点</u> ：献血の待ち時間の短縮

群馬県	「献血感謝デー」 キャンペーン	<p>献血協力に対する感謝の意を表すとともに、献血思想の普及を目的として、表彰及び献血啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液センター所長感謝状贈呈式 ・家族参加できるイベントの実施 ・移動献血バスでの献血実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：献血者数約 500 名 ・ <u>効果要因</u>：同時期・同会場で行うことにより地域住民での認知度が上がっている。 ・ <u>改善点</u>：定例のイベントとして地域に根付かせ、献血の認知度を高める。
埼玉県	埼玉県フェア 2014	<p>県の事業を PR する「埼玉県フェア」で若年層を中心に広く献血の普及啓発を図り、献血者を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献血ルーム及び移動採血車による献血 ・献血クイズ、着ぐるみ・学生による呼び掛け、展示ブース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：県民に献血の普及啓発、献血者の確保（献血受付者数 4日計：447名） ・ <u>効果要因</u>：埼玉県フェアの活用 タレントの協力 ・ <u>改善点</u>：集客数の多い土曜日にもイベントを実施。展示ブースを活用し献血の普及啓発。
千葉県	「キッズ・献血デー」 (模擬献血体験会)	<p>献血疑似体験を通じて、体験者等に献血の仕組みと大切さを知っていただき、将来の献血者確保につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献血模擬体験 ・けんけつちゃんとの触れ合い ・体験後のアンケート ・献血啓発関連冊子・保護者への手紙を配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：お子様の参加（402名）に合わせて、親御様の献血への誘導、献血広報資料の配付等効果的に行うことができた。 ・ <u>効果要因</u>：千葉県学生献血推進協議会による開催 ・ <u>改善点</u>：学生への事前研修の内容を強化 イベントがきっかけで献血をした人数の調査等効果測定を導入

東京都	はたちの献血キャンペーン	<p>冬・春の若年層献血者確保対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季の学域献血会場を中心に、市区町村の成人式で、引換券を配布。冬季～春季に都内献血ルームへ引換券を持参して献血協力いただいた方に、粗品を進呈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u> : <ul style="list-style-type: none"> 配布枚数 : 成人式 25,000 枚 学域献血会場、10,000 枚 合計 35,000 枚 回収枚数 : 1,023 枚 (名) 回収率 : 2.9% ・ <u>効果要因</u> : 特になし ・ <u>改善点</u> : 周知の点で弱かったので、ポスター・ポップなども作成することを検討する。
	産学共同事業 (PBL) 「TDW2014 (東京デザイナーズウィーク)」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該事業ならびに当該事業を通じて作成された作品を活用し、広く一般の方々に対し赤十字活動ならびに血液事業への理解を深める。 「TDW2014 (東京デザイナーズウィーク)」 ・ 平成 26 年度産学共同事業 (多摩美術大学との産学共同授業) において作成された学生の作品を展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u> : <ul style="list-style-type: none"> 出展ブースへの来訪者数 6,588 人 ・ <u>効果要因</u> : アンケートにおいては作品評価を実施し、当該結果を今後の事業実施へむけての検討材料とした。 ・ <u>改善点</u> : 特になし

	<p>若年層献血啓発事業</p>	<p>若年層の献血者の減少傾向を食い止めたい。子供たちに、楽しく、わかりやすく、いのちの尊さや献血の大切さを伝え、「未来の献血者」を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの企画 <p>【名称】 「つながるいのちのちのち」～血液センターのお仕事体験～模擬血液やミニ遠心分離機、血液の発注書等を使って一連の業務を体験。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：すべての回、定員に近い参加者を確保 ・ <u>効果要因</u>：人が集まる且つ意識の高い親子が集まる内容 ・ <u>改善点</u>：特になし
	<p>携帯メールクラブ会員限定企画 「医学講演と赤十字減災セミナー」</p>	<p>メールクラブ会員限定で開催し、献血の重要性について理解を深めてもらう。また、赤十字の講習事業及び血液事業の啓発に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学講演 ・ 赤十字減災セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：157名が参加 ・ <u>効果要因</u>：恒例化している中で、どのような内容ならば、参加者が楽しく、有意義に学べるかを東京都支部と綿密に打ち合わせた。 ・ <u>改善点</u>：メール応募のため、欠席者が多数発生する。

<p>神奈川</p>	<p>若年層献血推進イベント「ボラフェスタ in KANAGAWA」</p>	<p>ボランティア活動を行っている学生が、イベントを通じて交流し、学生自身が主体となって運営していくことで、学生がボランティア活動の幅を広げるとともに、献血への理解を促し、学生自身が同世代である若年層に献血の必要性を伝え広めていくことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体活動紹介ブース ・献血バスの配車 ・FM 公開生放送 ・県内プロスポーツチームによるアトラクション ・高校生演奏団体のパフォーマンス ・緊急車両の展示（こども撮影会） ・学生合同企画（献血紹介ブース、手形アート、スタンプラリー、手話ソング等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u> : 211 名、13 団体がブースを展示 献血者数 79 名 ・ <u>効果要因</u> : 学生の継続的な協力基盤の確立 ・ <u>改善点</u> : 特になし
------------	--	---	---

新潟県	情報雑誌掲載広告と連動した企画	<p>県民からの関心が高い月刊情報誌において、献血協力企業・団体を紹介する献血啓発広告を掲載することにより、読者の協力意識の啓発を図る。</p> <p>・月刊情報誌「月刊にいがた」において、献血に特に積極的に協力している企業・団体献血の様子を紹介する。献血に協力した社員による読者に向けたコメントもあわせて掲載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：普段以上に社内での呼びかけに力を入れていただき、取材日は前回実績を上回る協力人数となった。 ・ <u>効果要因</u>：取材が入ったことで、職場全体として献血へのモチベーション向上に繋がったと考えられる。 ・ <u>改善点</u>：特になし
山梨県	ヴァンフォーレ甲府とコラボした広報活動	<p>若年層を中心として献血に触れ合う機会を作り献血率を上昇させる。</p> <p>・ポスター、クリアファイル、うちわ等作成</p> <p>・サイン会を開催し、献血会場で献血してくれた人に配布</p> <p>・ホーム最終戦では広報用横断幕によるピッチ周回を行い、広報活動を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>：受付 199 名 献血者数 169 名 400 率 88.2% ・ <u>効果要因</u>：デザインが目につきやすく好評であった。 ・ <u>改善点</u>：広報用横断幕によるピッチ周回は広報効果が薄いので要検討。

長野県	献血ルーム体験運動	<p>献血ルームのない地域に臨時の献血ルームを設置し、献血事業の重要性を啓発し、献血機会の提供を図るため、「献血ルーム体験運動」を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血ベッド設置又は移動採血車による献血 ・休憩コーナーの設置 ・イベントの実施（手相鑑定、似顔絵プレゼント） ・風船プレゼント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事業効果</u>： 献血者数：663人／9日間（73人／日） ・ <u>効果要因</u>：身近に献血する所がないために献血することができない方の取込みや、献血をしたことがない方へのきっかけ作り。 ・ <u>改善点</u>：高校生をはじめとする若年層にも幅広く協力していただけるよう、周知方法や実施内容について工夫の余地がある。
-----	-----------	--	--

2. 27年度献血推進計画に盛り込まれている事業の取組予定

①学生献血推進ボランティア等（同世代からの働きかけ）の広報活動

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うにあたっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	・クリスマス献血キャンペーン及びバレンタイン献血キャンペーン等学生ボランティアによるキャンペーンを実施	・学生ボランティア
栃木県	・学生ボランティア「栃木県学生献血推進連盟（かけはし）」に6月「県民の日イベント」7月「サマー献血キャンペーン」12月「クリスマス献血キャンペーン」などにおいて街頭呼びかけを実施	・学生献血推進連盟「かけはし」
群馬県	・サマー献血キャンペーンや冬季のバレンタイン献血、ホワイトデー献血キャンペーンの実施	・学生ボランティア
千葉県	・「サマー献血キャンペーン」等の啓発活動の実施 ・キッズ献血デーの実施	・学生ボランティア
東京都	・通年での広報啓発活動	・学生ボランティア
新潟県	・8月「学生献血サマーキャンペーン」、12月「クリスマス献血キャンペーン」、2月「バレンタイン献血キャンペーン」を実施	・学生ボランティア
長野県	・4月の「血液センターまつり」、8月のサマー献血キャンペーン、12月のクリスマス献血キャンペーンで学生ボランティアによる呼びかけを実施	・学生ボランティア

②「献血セミナー」や血液センター等での体験学習への取り組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うにあたっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ・県内サッカーチームと協力して小学生サッカー教室を開催し、献血の講話を行う。 ・「赤十字キッズタウン」を開催し、献血の職業体験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内サッカーチーム ・病院
群馬県	<p>学童期から献血に親しむことにより、将来の献血協力につなげるために、「夏休み親子献血教室」を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献血に対する一般的な知識の学習、血液センターでの疑似体験、製造所の見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字血液センター埼玉製造所
千葉県	<p>献血を疑似体験する「キッズ献血デー」を開催し、将来の献血者を開拓する。</p>	
東京都	<p>丸の内キッズジャンボリーで、体験型セミナーを実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京国際フォーラム
神奈川県	<p>県内の大型商業施設数か所において、小学生を対象とした献血模擬体験「キッズ献血」を実施</p>	
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校18校に献血普及講演会を実施 ・年度末にはすべての高等学校に対して献血普及講演会の希望を調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校

③大学等における献血の推進及び将来の医療従事者を目指す者に対する普及啓発の取組

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	大学・専門学校での献血者確保対策を講ずる。	・大学・専門学校等
千葉県	大学等において4月に16校、7月に10校、12月に11校で献血を実施	・大学・専門学校等
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋には大学の部活動単位で学生献血ボランティアの協力を得て献血を推進する。 ・多摩美術大学と産学共同事業を実施し、東京デザイナーズウィークに学生が製作した献血啓発作品を出展することにより、広く一般の方に献血への理解を図る。 ・高校生以上の学生に献血啓発ポスターの募集を行い、献血への意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア ・多摩美術大学 ・高等学校等
新潟県	大学・専門学校等で40校程度献血を実施する。	・大学・専門学校等
長野県	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部生や臨床検査技師の学生に対して、献血の重要性を理解するための献血セミナーを実施。 ・大学における献血は、10校を予定 	・大学

④国民への献血実施の日時や場所等についての十分な広報活動

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
茨城県	通年でツイッターや新聞による広報を行うとともに、スポットで対談形式のラジオ番組を放送する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞社 ・ラジオ局
栃木県	通年で地元ラジオ局 CM、地元テレビ局、市広報、タウン誌を活用して周知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ局 ・テレビ局 ・市町村
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ・通年で地元テレビ局 CM やラジオ CM、新聞を通して周知 ・12月～2月は地元ラジオ CM での周知を強化して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ局 ・テレビ局
千葉県	血液センターのホームページにて周知するとともに、市町村ホームページ・市町村広報紙も活用して周知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村
東京都	ホームページ・facebook・ツイッターを活用し、各献血ルーム毎の周知に取り組む。	
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ・通年でラジオや県広報紙等による周知 ・冬季には地元テレビ局において番組内での PR を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ局 ・テレビ局

⑤平成23年4月1日に施行された採血基準改正についての広報

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法等)
新潟県	YouTube に動画広告を掲出することによって、新規献血者の確保につなげるとともに、血液センターのホームページとリンクさせ、献血に関心をもったユーザーが献血情報に触れる機会の創出を図る。	

3. 「献血推進2020」にある目標を達成するための重点的な取組み

①献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民を対象に血液センター祭りを実施し、献血に対する理解を深める。 ・隣接する病院・保育所・商業施設等と協力して地域コミュニティに親しまれる血液センターを目指す。 ・冬季に血液センター祭りを実施することにより、献血が減少する時期の献血者確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・保育所・商業施設等
山梨県	<ul style="list-style-type: none"> 献血の機会が減少する50歳代以上をターゲットに、献血者を増加させるため、献血ボランティア会員を育成して、会員による主催献血を実施する。 ・会員に対して、3ヶ月間、月一回の研修を行い、4カ月目に会員主催の献血を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライオンズクラブ、宗教団体、日赤奉仕団等

② 10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ・新規に受け入れてくれる高校を開拓するために市町村と血液センターで高校訪問していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村 ・高等学校
千葉県	<p>若年層への献血思想の普及啓発と献血協力を図るために、県内スポーツチームの協力を得て広報を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手のポスターやイベントへの参加、試合会場での献血啓発ブースを通して、スポーツチームのファンやサポーターを中心とした若年層に献血の重要性について広報を行う。 ・献血ルーム等でイベントを開催し、献血者にはスポーツチームとコラボした記念品等を進呈する。 ・県内高等学校へのポスターの掲出、ラジオによる広報等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NEC グリーンロケッツ (ラグビー) ・千葉ロッテマリーンズ (野球) ・柏レイソル (サッカー) ・千葉ジェッツ (バスケットボール) ・高等学校等
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象に「献血の絵」ポスターを募集することにより、小中学生から献血に親しみ献血年齢に達したときに献血に協力していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ・県内中高等学校に対して献血普及啓発を依頼し、献血の窓口となる養護教諭・保健体育教諭研修会等において献血の説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会 ・中学校・高等学校
長野県	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の中学生・高校生を対象に献血啓発ポスターを募集。優秀作品は、JR や路線バスの車内広告に採用することによって、若年層に献血の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校

③ 20代・30代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
栃木県	<p>地元テレビ局の「とちてれアニメフェスタ」とコラボしたイベントを展開し、若年層が献血と触れ合う機会を作り、献血率向上と400ml献血率の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント会場に移動採血車を設置し、400ml献血を実施した献血者にはコラボした記念品を配布する。 ・20歳代・30歳代の若年層を対象にしており、栃木テレビのCM放映やホームページの掲載や献血依頼のハガキ等により広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ局
群馬県	<p>ザスパクサツ群馬・献血応援スペシャルマッチを開催し、会場では常時献血啓発の看板等が目に入るようにし、また、キックオフの際にセンター所長の挨拶やハーフタイムには学生やキャラクターによる献血の広報啓発を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ザスパ草津（プロサッカーチーム）
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で著名なタレントを「彩の国けんけつ特命大使」に起用し、親子連れをターゲットに2回/月ショッピングモールにてイベントと献血を行う。 ・タレントが作った献血ソングのDVDを高校に配布し、高校での献血後にステージを行う。 	

千葉県	複数回献血クラブの募集のため、ポスター・チラシを作成し広報啓発を図る。	
東京都	複数回献血クラブの更なる会員確保を目指して、各イベントと連動して複数回献血につなげていく。	
神奈川県	・県内のプロサッカーチームの協力を得て、献血の啓発活動を行うとともに、献血者の確保を図る。	・プロサッカーチーム
新潟県	・複数回献血クラブへの入会促進を10代から30代に特化し実施する。	
山梨県	・県内プロサッカーチームとコラボした広報啓発活動を継続し、併せて献血者の確保を図る。 ・ポスターを作成し、複数回献血クラブの会員募集を図る	・ヴァフォーレ甲府
長野県	「スポーツによる元気な信州づくり包括協定」関連事業として、県内プロサッカーチームと協力して、試合会場における献血の広報啓発と献血者の確保を図る。 ・広報啓発としては、場内アナウンス等での放送やリーフレットの配布を行う。 ・移動採血車も設置し、献血者にはクラブグッズが当たる抽選会を実施するなど献血者を集める。	・プロサッカーチーム（松本山雅FC、AC長野パルセイロ）

④ 献血者が安心・安全で心の充足感が得られる環境の整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	水戸献血ルームを移転リニューアル	
東京都	・吉祥寺の献血ルームにおいて、こどもの保育イベントとして、献血中に子どもを預かるイベントを通年で実施する。	
神奈川県	・平成27年1月に「横浜 Leaf 献血ルーム」を新設し、3月には横浜西口献血ルームをリニューアル。	

4. 都道府県作成の広報資材、記念品等について

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
10 都県	パンフレット・リーフレット、うちわ、クリアファイル、ボールペン等を作成し、特に若年層対策を行う。また、広報資材を地域のプロサッカーチームやアニメキャラクターとコラボして作成し、より献血者に興味をもってもらえるように工夫している。	

5. 28年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	28年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
埼玉県	十代を対象とした対策に「献血可能な十六歳から献血を啓発し、将来の安定的な献血者として育成するため、十六歳からの献血を推進していく。」という内容を加えていただきたい。	若年層を対象とした対策について、献血可能な16歳から献血を体験し、将来自ら献血ルームに足を運んでもらう施策が重要と考える。